

p120 「一問一答」

1. 抗ヒスタミン成分は、抗コリン作用も有する。
2. メキタジンでは、重篤な副作用として、肝機能障害や血小板減少を生じることがある。
3. ジフェンヒドラミンは、眠気の副作用が少ないとされている。
4. プソイドエフェドリン塩酸塩を含む鼻炎用内服薬とセレギリン塩酸塩との併用は避けることとされている。
5. プソイドエフェドリン塩酸塩は中枢神経系に対する作用が他のアドレナリン作動成分より強く、副作用として強い眠気を生じることがある。
6. ジフェンヒドラミンは、乳児に昏睡のおそれがあるため、授乳中は服用しないか服用した場合は授乳しない。
7. アレルゲンを認識したヒスタミンによって、肥満細胞が刺激され、免疫グロブリン等の物質が遊離する。

【解答】

1. ○ 眠気のほか、眼圧上昇、口渇、便秘、排尿困難等の副作用にも注意。
2. ○
3. × 眠気の作用は強いため、睡眠改善薬としても使用されている。
4. ○
5. × プソイドエフェドリン塩酸塩は中枢神経系に対する作用が他のアドレナリン作動成分より強く、副作用として不眠や神経過敏を生じることがある。
6. ○
7. × アレルゲンを認識するのは免疫グロブリン。肥満細胞が刺激され、遊離するのはヒスタミン。